芸　術　科　学　習　指　導　案

<table>
<tr><td colspan="2">授 業 日 時</td><td>令和元年１１月１８日（月）</td><td>指 導 者</td><td>○○　○○　　印</td></tr>
<tr><td colspan="2">実 施 学 級</td><td colspan="3">２年　１・２組　　男子　１１名　　女子　１９名　　合計　３０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">教材・単元</td><td>漢字仮名交じり書
～連歌　思いをコトバに、そして表現へ～</td><td>使用教科書</td><td>書Ⅱ　(光村図書)</td></tr>
<tr><td colspan="2">単元の目標</td><td colspan="3">①知識及び技能
漢字仮名交じりの書を構成する要素とその表現効果の視点から、名筆や現代の様々な書の表現と用筆と運筆の関わりについて理解できる。書の伝統や文化について理解し、漢字と仮名の調和や、意図に応じた効果的な書表現の技能を身に付けることができる。書の特質に即した見方・考え方を働かせて、表現方法や書表現の多様性を理解している。
②思考力・判断力・表現力等
書のよさや美しさ感受し、目的や用途、表現形式に応じた全体の構成を構想し、意図に基づいて創造的な表現を工夫することができる。生活や社会における書の効用と現代的意義について深く捉えることができる。
③主体的に学習に取り組む態度
主体的に書の創造的な活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の美しさや価値、心情を感じ取る能力を伸ばす。書を通じて心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指導観</td><td>教材観</td><td colspan="3">上の句に対して自分自身の連想を働かせて下の句をつける「連歌」という文芸文化を基調に、短歌を構想し、「漢字仮名交じりの書」の創作活動に取り組む。「連歌　思いをコトバに、そして表現へ」をテーマに、決まった上の句に、下の句を付け、人の個性によってどのようにでも変化する多様性や面白さを感じることができる。「漢字仮名交じりの書」の表現や鑑賞では、古典を基調とし、思いを表現するための古典を選択させる。また、漢字と仮名の調和と、全体の構成意図を思考させることで、効果的で個性的な表現を目指す。二八紙 1/3 サイズを用いて、目的や用途、表現形式に応じた全体の構成表現を構想させたい。</td></tr>
<tr><td>生徒観</td><td colspan="3">本クラスは明るい生徒が多いが、中にはおとなしい生徒もいる。授業中の質問や発言は積極的であり、書の表現に対する意識が強く前向きな姿勢が見られる。実技においては、得意な生徒と苦手な生徒が半々である。今回の単元では、古典を参考にするが、「自分らしさ」の表現も大切にし、個性を存分に発揮した作品を創るという点で、苦手意識のある生徒も書表現の楽しさを感じてもらいたい。</td></tr>
<tr><td>指導観</td><td colspan="3">学校経営ビジョンの「他人を敬い多様な人々との連帯を果たし、自ら考え自ら行動し新たな価値を創造できる人」に向かって、書道を通して、豊かな感性と創造性を育み、自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイディアを共有し表現を生み出す力を育みたい。
書の伝統と文化に豊かに関わることや生活や社会の中の文字や書に関心をもつ資質・能力を育むために、「連歌」という文芸について理解させ、自作の歌を書で表現することを共通理解させる。下の句の構想をさせたり、歌から連想される気持ちや情景を表現する最善の古典を思考させたり、表現の多様性やおもしろさを感じさせることを段階的に進め、豊かな感性と創造性の育成につながるよう工夫し実践する。題材を上の句 3 首から選択させるが、上の句が同じという共通点を持つことで、多様性を感じることにつなげ、これまで学習した隷・行・楷の書体の古典から選ぶことで、制作者のねらいが、書風や構成から伝わる効用として考えさせるよう工夫する。グループ批評を入れることで主体的・対話的な活動ができ、言語活動と表現活動の活性化につなげたい。また、周りの意見から得た「気づき」を制作につなげさせたり、互いに根拠をもって評価し合ったりと課題解決につながる活動を行いたい。作品完成後は、自分の言葉で意図と表現を伝えさせ、他者の表現も知る活動を通して、自己肯定感を育みたい。</td></tr>
</table>

指導計画	①　漢字仮名交じりとは　連歌とは　下の句を考える　・・・２時間 ②　下の句の考察（グループ）　参考作品鑑賞・批評　・・・２時間 ③　集字　構成案作成　・・・２時間 ④　文字練習　配字　・・・２時間 ⑤　練習　制作　・・・２時間 ⑥　作品の考察（個人）　作品批評会（グループ）　発表　・・・２時間（本時 2/2） ⑦　仕上げ　・・・２時間
評価の観点	本　時　の　評　価　基　準
（A）知識及び技能	見方・考え方を働かせて、漢字仮名交じりの書を構成する要素とその表現効果ついて理解できる。
（B）思考力・判断力・表現力等	書のよさや美しさ感受し、目的や用途、表現形式に応じた全体の構成を構想し、意図に基づいて創造的な表現を工夫することができる。
（C）主体的に学習に取り組む態度	主体的に創造的活動の喜びを味わい、鑑賞の活動に取り組もうとする。 感性を高め、書の美しさや価値、心情を感じ取る能力を伸ばす。

本時の展開（指導過程）

	学　習　活　動	指　導　内　容	指導上の留意点	観点別評価		
				A	B	C
導入（8分）	○批評のグループを作る ○本時の学習内容と目標をとらえる ○全体で共通の作品を鑑賞し表現効果を知る	○グループを作らせ、批評できる環境をつくらせる ○本時の学習内容と目標を明確に伝える ○伝わるイメージを古典の特徴と線質、構成の面から批評させる	○準備物の確認 (作品、ワークシート、筆記用具) ○生徒の制作時の映像があれば流す	○		
展開（32分）	○前時に仕上げた作品をグループごとに鑑賞する ○各観点に沿って作品向上のアドバイスを記入し、言葉で伝える ○鑑賞で観点の総合点が高い生徒の作品を発表する (４名程度)	○鑑賞させる ○鑑賞で気づいたことを記入させ、言葉で伝えさせる ○発表を聞く態度、感想を述べられる発問を行う	○鑑賞批評の観点をわかりやすく説明 ○活発に発言できているか、机間指導する ○発表に対する助言を行う			○ ○
まとめ（5分）	○学習の記録に課題と反省を記入する ○次時の予告・片付け	○学習カードに反省や課題を書かせる ○次回全体で鑑賞すると伝える				

書道Ⅱ　漢字仮名交じり　（　　）年（　　）組　名前（　　）

連歌（れんが）～思いをコトバに、そして表現へ～

連歌とは、和歌を使った文芸のひとつ。鎌倉時代から江戸時代中期にかけて流行した。

和歌の上の句（五・七・五）と、下の句（七・七）を多数の人たちが交互に作り、ひとつの詩になるように競い合って楽しむ。
百句になるまで長句・短句を交互に連ねていく→「百韻連歌」　後に「歌仙連歌」（３６句）に変化
連歌の盛行したころにはしばしば寄合をまとめた寄合書がつくられた

松尾芭蕉らの登場によって、俳諧の芸術性が高まり、「俳諧の句」が独立し、「俳句」へと発展。
明治に入り、連歌は次第に俳句の出現によって少しずつ衰退。

連歌にもルールがあるが…　※今回は、上の句に対して下の句を考えます！

お題①　「　冬晴れや　朝日直射す　丘に立つ　」（五・七・五）

お題②　「　帰らざる　三年の春を　惜しまんや」（五・七・五）

お題③　「　雲光り　虹架かる空　春の日に　　」（五・七・五）

○上の句から想像できる情景やイメージを考えよう
・色で表すと？　　（　　）
・想像した情景を単語で書き出そう

・イメージを言葉にして書き出そう

○上の句に続く下の句（七・七）を考えよう

下の句「　　」

意味：（　　）

今後の流れ
漢字仮名交じりの書に必要な、漢字と仮名文字の集字
紙面構成（紙面構成、文字配置、大小）などの草稿づくり　→　練習
作品制作　→　発表・鑑賞会・まとめ

授業プリント②

漢字仮名交じりの書　　(　　)年(　　)組　(　　)

漢字仮名交じりの書とは？(教科書参照)　漢字と平仮名・カタカナを調和よく書く表現のこと。

①構成バランス・・・文字の大きさ　紙面の使い方　※余白にポイント絞って考えてみよう！

②墨色　　・・・濃・淡

③配字　　・・・文字をどこに置くか、目立たせる文字を作る　など

④筆法　　・・・**古典**を基にして、気持ちやイメージを表現する

※あくまで古典をもとにする　行書・隷書・楷書の古典

(力強さ・軽快・温かい・鋭い　など)

お題　「　　」(五・七・五)

あなたが考えた下の句（七・七）

「イメージ・工夫」　用筆法（逆筆)、墨色、流れ、太細、かすれ、潤渇、濃淡

例：〇〇の様子を表現するために、力強い用筆法で、太細を強調する。墨の潤滑を工夫し流れを出す。　など

「構成」　紙の向き　(　縦　・　横　)　※下の余白を紙面と仮定して、構成を考えよう

※紙の向きにあわせて構成すること。

字書で漢字のくずしを調べ、ページ数を控えること。文字は半紙に書くこと！

授業プリント③

書道Ⅱ　漢字仮名交じりの書　　（　　）年（　　）組（　　）

○イメージを書で表現する

① 表現から伝わる印象を文章にしよう

イメージ（情景）のヒント

●温度（熱い　温かい　涼しい　冷たい　　）

●強さ・速さ（強い　弱い　速い　遅い　激しい　緩やか　　）

●時期（春　初夏　真夏　秋　初冬　真冬　　）

●場所・環境（海　山　丘　街　草原　上　下　空　）

●印象（優しい　温かい　寂しい　激しい　心地よい　柔らかい　爽快　　）

書表現のヒント

運筆・用筆について

●起筆が（鋭い　丸い　逆筆　強い　　）

●送筆が（ゆったり　速い　重い　中鋒　　）

●終筆が（速い　鋭い　勢いがある　流れ　）

●点画が（丸い　構成　角が強い　太い　伸びやか　）

紙面構成について

●字間・行間が（広い　大きい　狭い　つめる　）

●行頭を（揃える　揃えない　）

●文字の（大小がある　大きい　小さい　目立たせる）

●余白の取り方が（せまい　広い　文字の周りが白い　黒々としている　縦に流れる　横に並ぶ　）

①

作品例

②

作品例

③

作品例

④

作品例

⑤

作品例

⑦

作品例

⑧

作品例

⑨

作品例

⑩

作品例

参考：光村図書『書Ⅰ』『書Ⅱ』

授業プリント④

古典を生かした　作品表現　（　　）年（　　）組（　　）

●書く言葉

★制作者のねらいと表現とその効用

書体（隷・行・楷）・書風

書体　（　　）

使用する古典

（　　）

古典の特徴を踏まえたイメージ

↓

線の表現

仮名の調和

※漢字の書風、線質に留意する

墨色（　濃　淡　）

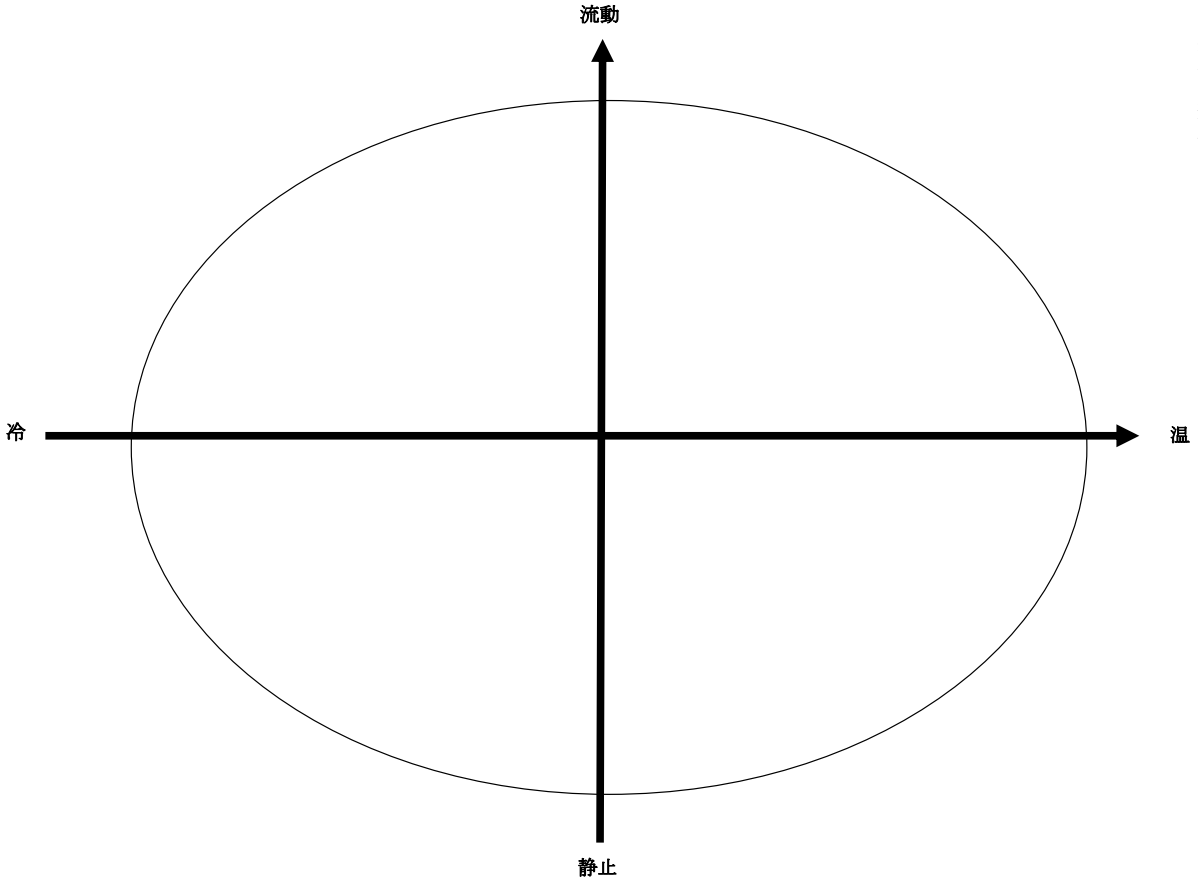
選択リスト使用する書体

隷書
・乙瑛碑
・木簡
・その他の隷書

行書
・蘭亭序
・争坐位文稿
・蜀素帖

楷書
・九成宮禮泉銘
・孔子廟堂碑
・牛橛造像記
・顔氏家廟碑

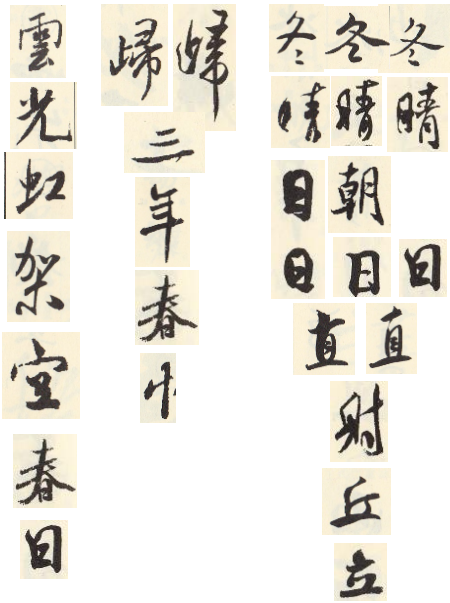
書体の効用



授業プリント⑤

古典を生かした表現　集字

米芾（蜀素帖）



王羲之（蘭亭序）

米芾　蜀素帖

左払いが長く重い傾向がある　左重心

刀で切ったような線質　文字の大小

線の太細　囲み文字の余白が広い

力強さとゆとり　**重厚と軽やかな運筆**

・軽快さ、冷静さ

・強さ、心地よさ

・速さ、スピード

蘭亭序

整った行書体　字形の変化

豊かな筆勢、**鋭い起筆**と終筆がみられる

抑揚ある運筆のリズムで気脈がある

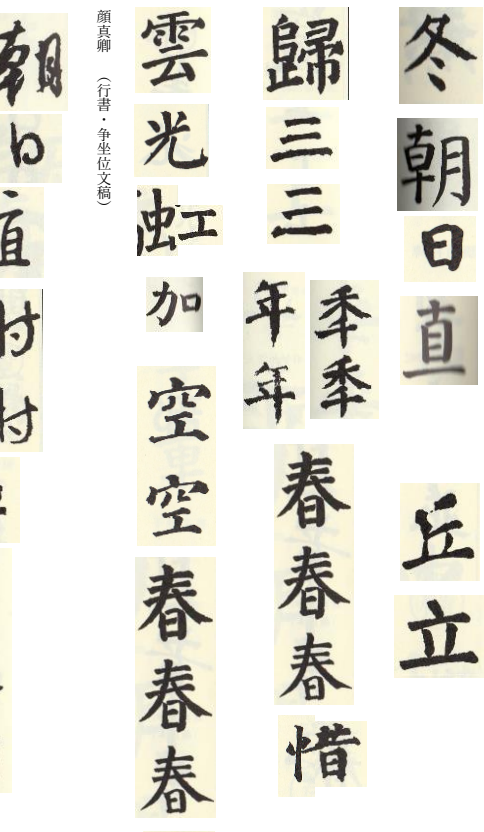
・清らかさ　・柔らかさ

・明るさ、軽快な温かさ

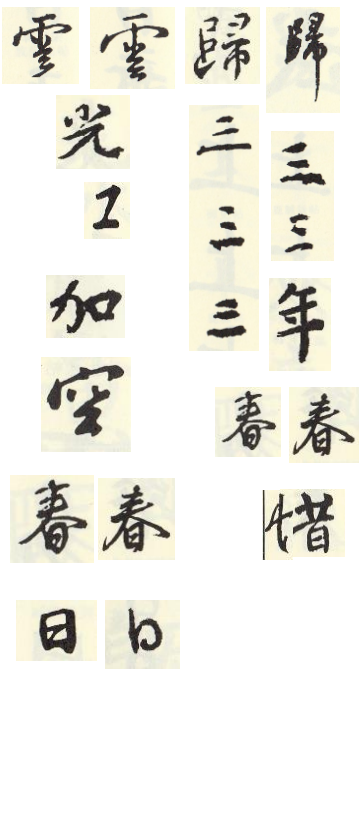
・冷たさ、冷静さ、涼しさ

古典を生かした表現　集字

顔真卿（楷書・顔氏家廟碑）



顔真卿（行書・争坐位文稿）



顔真卿　顔氏家廟碑

字形は縦長　**躍動感**がある　**蚕頭燕尾**

縦画が特に**太い**

筆の開閉による**肉太の重厚な線**

・温かさ

・強さ、激しさ

・

顔真卿　争坐位文稿

筆脈と文字の大小、懐の広い文字構成

丸みと力強さ　粘りのある表現

穂先の弾力　起筆が蔵鋒の部分がある

流れと立体感のある重厚な運筆

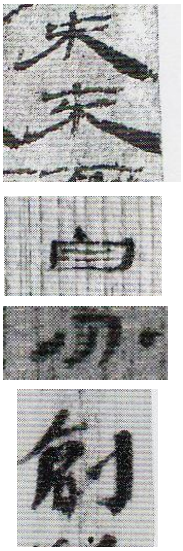
・広がる温かさ

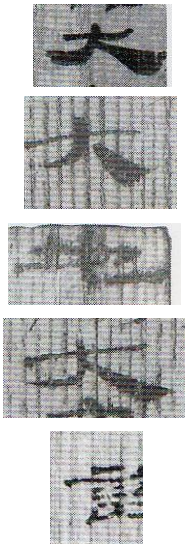
・どっしりとした、力強さ

・柔らかさ、ぼてぼて

・

古典にみる効用（木簡）





木簡
字形は扁平や縦長が混在する
起筆は**蔵鋒**、穂先は線の中心を通る
大胆で柔らかな筆致
運筆はリズミカルでスピード感がある
・軽快さ
・緩やかなスピード
・優しさ
・強さ

孔子廟堂碑
のびやかで柔らかな線質　穏やかな運筆　向勢
横画は水平に近く、はね出しは**長く緩やか　丸み**
字形は多少横広で安定感がある
送筆は徐々に力を加える
・温かさ、のびのび
・心地よさ、ゆったり、優しさ
・明るい
・穏やかで落ち着いた様子

牛橛造像記
字形は正方形で左傾　転折一画を加える
起筆は**角張り強く、剛直**　押し出すはね
点は三角形　引き締まった運筆
強さの中に躍動感がある
・力強さ
・冷静さ

古典名	古典の特徴	表現と効用
乙瑛碑	字形は扁平、横画は水平で等間隔 起筆は**蔵鋒**、穂先は線の中心を通る 一字一波、横画と縦画を二筆で書く **安定感があり力強く堂々とした風格**	・強さと温かさ ・爽快さ ・冷静さ
木簡	字形は扁平や縦長が混在する 起筆は**蔵鋒**、穂先は線の中心を通る **大胆で柔らかな筆致** **運筆はリズミカルでスピード感がある**	・軽快さ ・緩やかなスピード ・優しさ ・強さ
蘭亭序	整った行書体　字形の変化 豊かな筆勢、**鋭い起筆**と終筆がみられる **抑揚ある運筆のリズムで気脈がある**	・清らかさ　・柔らかさ ・明るさ、軽快な温かさ ・冷たさ、冷静さ、涼しさ
争坐位文稿	筆脈と文字の大小、懐の広い文字構成 **丸みと力強さ**　粘りのある表現 穂先の弾力　起筆が蔵鋒の部分がある **流れと立体感のある重厚な運筆**	・広がる温かさ ・どっしりとした、力強さ ・柔らかさ、ぽてぽて ・
蜀素帖	左払いが長く重い傾向がある　左重心 **刀で切ったような線質**　文字の大小 線の太細　囲み文字の余白が広い 力強さとゆとり　**重厚と軽やかな運筆**	・軽快さ、冷静さ ・強さ、心地よさ ・速さ、スピード
九成宮禮泉銘	**硬質の線質**　字形は縦長　横画右上がり **背勢**　はね出し部分は**短く鋭い** 起筆は突き立てて強く、鋭い 転折では**鋭く角をつけ直線的**	・冷静さ ・涼しさ ・爽快さ
孔子廟堂碑	**のびやかで柔らかな線質**　横画は水平に 近く、はね出しは**長く緩やか**　**丸み** **穏やかな運筆** 字形は多少横広で安定感がある　**向勢** 送筆は徐々に力を加える	・温かさ、のびのび ・心地よさ、ゆったり、優しさ ・明るい ・穏やかで落ち着いた様子
牛橛造像記	字形は正方形で左傾　転折一画を加える 起筆は**角張り強く**、**剛直**　押し出すはね 点は三角形　引き締まった運筆 **強さの中に躍動感がある**	・力強さ ・冷静さ
顔氏家廟碑	字形は縦長　**躍動感**がある　**垂頭燕尾** 縦画が特に**太い** 筆の開閉による**肉太の重厚な線**	・温かさ ・強さ、激しさ ・

作品の考察　　(　　)年(　　)組(　　)

個人での作品考察

①　選んだお題	(　　) 番	自己評価 （５段階）
②　上の句から想像した 情景やイメージ		
④　下の句の意味と 情景やイメージ		
⑤　参考古典とその特徴 特徴を生かし工夫したこと		
⑥　線の表現や仮名の調和について工夫したこと		
⑦　その他で工夫したこと 主張したいこと		
⑧　反省（自己分析） 仕上げまでの課題 （班活動の批評を生かして）		

①選んだお題　(　　)番です。
②上の句から想像した情景やイメージは・・・・です。
③私が詠んだ歌は・・・・(　上の句　＋　下の句　)
④下の句の意味は・・・・で、・・・・の情景やイメージが伝わるように言葉を工夫しました。
・・・・で、・・・・の言葉から・・・・の様子がイメージできるようと考えました。
⑤作品では、・・・・のイメージや印象を表現するために・・・・という古典を参考にしました。
⑥古典の特徴は・・・・(　用筆法・字形・転折など　)です。
⑦特徴である・・・・・(　用筆法・字形・転折など　)を生かして、更に、・・・・(　線の表現・仮名の調和について）も工夫して・・・・(　イメージ・効用・雰囲気　)が伝わることを意識しました。
御批評お願いします！

実りのある批評会　　(　　)年(　　)組　(　　)

作品鑑賞の観点

班メンバー 観点	(　　)組(　　)		(　　)組(　　)		(　　)組(　　)		(　　)組(　　)	
①歌の意味が伝わるか								
②歌の意味と古典の選択が合っているか								
③古典の特徴が表現・工夫できているか								
④情景イメージを表現するために工夫できているか 用筆法(起筆・送筆・収筆)　字形 抑揚　流れ 大小　濃淡　など								
⑤線の表現や仮名表現が調和しているか 太細　潤渇　速い　流れ ゆっくり　丸い　大小								
⑥紙面構成は工夫されているか								
評価の合計								

授業プリント⑧